へ13
3269
2

特 へ13 3269 2

紙枠利

むらしけ巻之二

○太閤居城

丹波亀山城の城主赤井治左衛門ちかはるく大武者にてありまれなりしもでに七八歳の比同国湯の森より変化のあるく来よ入くハ人とくくぶくり其形にし変化のあはせかたらめそり。表あけくくたれバ石仏あくあるもらでおる時要那の手ひらく動びく京都よりのかり。京桂に家のうちに住義ちたる古屋敷あるくと傍く遍多しもるそのあるくそさ人らのようくと見くく笑山かり猫たる歩つゞ高麗寺の行ふ猫るる。山屋敷まいしくしくら妖和あり。人相はいるもしに来たさ

ものうけ物に出ぬ[illegible]りくたるもとそ。あるいとそ[illegible]
つゝ食ふ。このゆへうりをゝ[illegible]むに[illegible]くすきまゝく
荒果てゝ。つゝさを人みてゆゝ[illegible]ゝ。
伊ちよ猿をはゞ[illegible]。[illegible]ちよ[illegible]ゝ。若けり。[illegible]
和ふゆをれぬ者ゆゑれば米[illegible]。何条の事ぞ
[illegible]の地ふうりかゝ[illegible]。
一たかりうゝ[illegible]。[illegible]
[illegible]れば寝ふ入[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
不[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]

[illegible]して。[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
人の[illegible]。[illegible]
ものあり。[illegible]
化[illegible]。[illegible]
[illegible]の[illegible]。[illegible]
[illegible]よ[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]

絶頂迄つゝていと伝ゆ迄ゝ〳〵ゝ〳〵伝ゆ
ゆゝかゝその上伝が何ゆへよりの地の主なるぞと伝ゝゝ〳〵
めゝゝゝずやゝゝとゝゝゝ

雨月をくんしみやこれ又何の因果ぞや。天よ一人ちからを
おとす又世のはかりごとの秘欲ふかき者人和合費をなす
にまた偽とみぐるしきその價とりうる人の依ぎごろ時禁をと
味を諸を半くいつまりなすきようとはくろうをいんぐるも。
んよりも神雨あるんとあるを弊帛をさげ供物をとり形へ
くさまつりたぐひひとの禁を絶うしてまんくそれ
私欲を思うをもよ世の語あるて神い正直のかうべに在らう
ようにいつまりはんをそなへ無思私神なるべしもちろんば
生ちくやくべきさりのふりくべしてあるかふりくはりくる。
去代つ云の風習ふりなぐに和んことをもと思うをもなげ
かしひとを不よかの歌ふ板土紙をに在私しまりはれ人

一人のうつ至んりくやうらくまぐ私あけざるふ之ゆり
寢ろふうくを法九弟つとやとうを紙。ひうにそ義化和あい
あいるすびりやとつふ法九清門義さめ汗あにありうく大島
つうを義に去代な品像をうりうりりりりとび義りうし
ふへ泥くを弟りを世せりやりうを夢のありうるりうり日ひ化
おありうしうふいはちりるべしりられりも和りを思りりとう
ぞうくを責代くりりそりのりはよを素くじりん在をくを和
在りくりひそりりがそのをりをびよたげりびおくりを私よりを何の
物是もおくそにんを代づけをりりりを

○壽考初三世

天文乙卯の冬清國天王寺の老に文吉ひよあを沼ろ

警固あるべきよし、元一切のおれ者どもをとりあつめ、その吉凶をとりあつめ、ぞうをたづねしに、三ぬ流彩雲長文同名宗三入道に聖仏とうくく合戦に及び、半ばかりに、細川勝元、宗三と異議し多勢をもつて後陣しもつ。宗三勝元、近習外様の大名小名と使し。手勢三千余騎ばかりの里にうち上り、あふぎの陣をぞすゑ、宛兎の翼害をれば、たちまち畜べきうちかつ。明日出陣、十万騎一ねつづれば、小勢をそ押よせれば、敵の勢ものんとれ、ものらぬ者ども、なりもとの。かの警固一ぞうるの、そ者に、中ばかり、家に勝負しとられへ、ぞう。果しく宗三敗北し、雑兵のびにかりけ、ほとりる。又ねぞ義晴、京都と落ぬんとするのいれ、月警固の彩とぞり

ちぐ旗の風にあびく者紙ゆのく将軍家の旗あるとて
雪人形ちらひね家明日東山義照ち人入ゆ子ち人毒にされち
めてちつゆ或人是伊勢物語の所をよそうに聲
老ゆ母ゆ子ぞれば此度東の方へもゆくいてびゆりあゆ
まぐちちゆと話ちゆげゆ将軍宮ちの新所ゆく魏玄
ゆひちゆゆ書にぐくつひちゆうられいゆうく妖生
兼三世のまと知れりこいつ夢人ゆゆーゆくちくば弟生い
何くに生ゆひちゆゆ聲老ちうてつ風ゆされば
宮初の生ゆ妖ゆくあちゆゆ未陰家の中に邪
くれく伊ゆちゆれぐ夜明いるぐに異樂ちゆ
く遍體ちくくちつされりぐゆく苦痛つゆちうゆ

飢渇くその中つゆさつちんちもちんちれりゆ。せあてこのまに
死んと欲ぐもそれもうゆらびゆる時ちくちゆ車の来ると
乃ちくいちぐちの乃のまん中に出く礫ちちうされんちて行
行ぐゆ。見ちゆ人なほちゆ人乃ちつ家く過ちくへいゆまちりくの
家ゆちくにくちゆゆその傍樂人の薪行俵ちと乃ちく者ひて
中ひちその薪の中にちくちゆまりて遂に樂人の方よちわ
ちちつされく果ぬゆ又その行の生ひて鹿ちゆりぬ。ゆく肥ゆて
ちちくちゆ中をすちちうゆとゆ指人のくあにちちうされ。
人の肉食ちゆりぬ。その肉一所づちちうて賣に一所ちに
ちくくを鍋をまちちうにちくくゆ。ゆ鶴ゆいと嘉嫌ちに
ちちちちく減しれちりぬ。才三生にちちゆくゆりぬ。されいるち

鞍うちかけ、ものゝ若ものらをしたがへ、ぶぎやうにて、
ぶぎやうのおち狩と號して、首尾ゝ、ふくりゆう、まさ
ちかおうしたがひ、ぶぎやうにて、そのうちさうし
しさん、ゆうる、徹しくくつゞく、ゑりこ、ゑりこ、
こ、ゆうに、人ぶ、
ぶ、ぶ、ぶ、

○親子の寄遇

世に有ける戒重乃僧と戒重甲斐ち殿番代の家元に松田
松田ちくもの殿あり人らもに武乃計男に為て無二
乃忠切とくぞまし。戒重の家数代事あり。
ちうに松田ひとりぞれ四十ハ歳とるおのの子さまをおびさ
くに人の家代より。びんぼうでてかくしいちるその家ほ
うぶんもあるとよくあひちくひあさけるくりそなり
ぞれだ内ちうこあるく強奴しあくみそう家ある時嬢姫
しもる。松田ちぶりをくんの内ちいごろに孫ぐひ
ちうぬそ。人ちまびちろさびちるふ。その家あいまんく孫さ
まりくぬくいちりく。ぷりふりて家ぐ所をはちさぞん

らたくくて収生姫をこのそぷり家ぐ所ちお男ちいば何
ちそ光ちく。他人の子ちぐ孫りうくくちるそ女
お子産し拾ちちべ。ちそ色ちく仕すちおいその悪賞にい
黄金十枚ぷちすぐ。ちく汚朱しちる姫い何ちの事ちれて。
おの黄金ちめぐちれてぷちあも四ちすくちいほ人殺ち兵
まにちちあひけくんちぷたりぐひふちけぐひちる。
山姫ぐ姫ちその汚嬢姫しも月ごちふ成ちる。姫ちちぐいちう
ことちちびぷ姫おも山ちよちくいちちせぷりしちちくお
女ちくいちの家ぐおくちりおべしたくお行ちぐに一月
ちにぐちくく姫ぐ姫ち女ちと。ちの汚の日の家い男代
きり。姫ち男ちくおしく家ちいば男ひく家ぐちりおくし。

幼そなたこの姫うつくしたてまつりぶにうつくしかりけり。女房なりと板家
しかるに板田ぬし家くろうちうちの侍ども大ぶ
ものをとうあひさらとらもしかるべきひしうひものぐたび忙
らうくたのしまず。あもたよりあげさうさうゆよりてい。
このこびてそあれうさうくのほうつうつ仏神をもいのり
男あれりめまへうしらく。ぐうもらくくしうさ行
念じ仏神恵をかしこひくひくひくのあて男あ乗庵
あんをを行ひしる。板田もひごろ松智那神あり
者あれども。ぐげかく妻いつらそれいはらてぐ宮ひ
うぐふんうあるとかる。去年よかの姫松田ぬ夫へもつ移ふ
りあひしかるぐあるうた姫ろふほよ藤くれをこびもうの

板田ぬおはうりへしかをと。松田ぬ家ふ御ぬ御しかを。
りてよると松田板田ぬらに松田ぬ家あいぐをあれば御ぐうさ
さまひくまぬ家ぬ姫行ひびよせはうく会俄しぬさうあけ
神ぐ。姫も涙んとうれぬけびてぐくうを白牧しをな松田ぬふ
姫をぬぐしいまりているうぬんぐ女ぬぐみをうくき
くみをあるり。この本りし他人よると家顕あばあんぐら
ぬ一命のうび後伐をれんあびんの本やりもどうも
りそをこういうるうにそうでぬ本を風寒そうに
にうくひぬうすべくいへ。姫ろうよゆをれゆのに汗
をうう涙とあぐしたぐいるうるぬのうくひにうさ
びいうくまうん命をたをりのうくあてあせれぐく

きり。松田ちゝ。いとんらにて。下ゆく本のそのちり
うゝ。野ひとつ。きは松田う野。野ひとつ。ゝゝ。
そゝ。家でうも。陳野にて。世百に。羽しき
ちゆう。孫よりて。野ゝ。ゝ。ゝ。

傳しいれ酒肴よういでゝこゝにりて、すゝ酒高あく
ごに枝田すゝ秋久うりくあらぐとすゝ枝田あや
ちゝそこゝさゝも何なくいとげさまゝ枝田ゝいくゝは
つゝくゝ涙とれゝうめさいとれちゝ仇よゝ部せんと呂人
そのゆへゝ部とゝりゆゝめ十ゝ部ゝりゆゝくゝ人るめ十ゝのの
書素苦ふをゆりつゝ其ゝ中ゝ嘉ゝ中ゝ浪ゝ更ゝ美
幻ゝゆりくゝらゝ母ゝゝ浪ゝせちゝらゝ恨みあゝゝゝゝれゝ
考ゝ部ゝ部ゝつゝゝ男ゝゝ中ゝ。ゝちゝせゝくゝゝゝ名仲を
中ゝゝ愛ゝゝゝゝゝゝ作ゝゝゝゝゝゝ

妙なれば板田ろふかうさとの所に松田うぢと申す
をいとびて都よりうく君ぐ書ふうづひまつとして板田
ますくふ書られどもいとびかりて書に表つの書七
ろうくすづさ柳なく姫の浦飛とかうりその時よて
女にとるに嬢ぬゆへつるとの母ぐれまとてみしうづる
よふるにちぐびい色俗のあにづかのくまり。ちるれ
ゆへ君色所のづまうんとのくまふゆへいぐおげうきに
つけうぐかのうみのうゆーさいふとるなく心より肌後
梅家の主所なうとーふぐどゆあうーまつうぐとて
ちづーに半なづみりあるとうびふうゆうに
何よもゆうーあいうくいうさうめおよびへまつとす

む板田ろかうう半とびちうに心ひぐろ気のよ
を他所ーせーー遠恨さよと法うあーうぐすかうら松田ろう
歌門しううめあ所姫りうちふよびへ入ぐ板田いかちわ
のうれうさふやうのあ所名うーーくあをいひあびに
いぐにつうく法うぐすかうら名所板田甚十郎こあうーあ
うわが名所を俗せ。又どあうぐおにーー姫が如よいすぐに
高十郎よ書をうく夫婦せのーぬ板田多よの殺色
ーうちおうう心ーけうろうづうろうのぐくあれば出都の時う
えをうぐまりぬこれ色へよ板田が朋友のうーあうく。
たのりーさんの田へうづ書の姫ぬのやむ河所ゆうーぐ今
すぐに訳よの対色なーめうう。そのんづひちせ

後ろぬきとび武者のごとにかぐらぶい男も物も物ら女ども
かくしあれ孫さま母くうくいうりてそのまま伝せてぐぞうさ
ういたくぐらてもあれ物と紙と換じ。果よいを後とたち
あつ氏滅をりめ物たし。御いるるを色に動たりあ
ぐや

○和尚遁欲

和換国、三浦荒次郎義澄ら三浦大介義明の孫胤陸
奥ちたくすへたのみをりあり弟の七人あ守八十あ人ぐ加
あり。清思く眼ちありくよ足の猛く健かりをと虎
豹ちん埼ふ仏くり。永正のかり上杉憲房ちま明奥の幕
下に屬ちく小泉ふをと合戦ちくとて敗度に及ぐり。

ちくまこぐも欲大罪あれ。三浦ふうちまけく
和列彩弁の埼ま楠義。早を押寄くふく責戦と
いぐも味ちくわちく義ぐりを。永正十九年七月十一日
味中粕尾二ふ余騎命とをくくくあ絶日せん戦い
ちくくを付死。三浦ちすも服ちく切く奥ぬ。荒ち生
ひ廿一歳をいあふとち。ぐとぐさたぐ母ふ母ぬ。仏
ちく付死をんと。一ふ二人の櫻の枝八角ふをぐうくふを
折ちくく東あまちうくいくあ大蝶にちちうりのいあちと
意にちくちくと箱御とぬをに大塔加のあ武ちこう
とられぐくちちくくくれば前をぬぐをあもあ一ぬ矢
楠殿のちくいあくうこうちと折ちいぐ義忠儀ぬと

のりもの八郎人よ屈神のてくてくたしかに者よ五百人
人用のそこに付ふてを。少氏屈をそこに抜氏そこに。おのこ無
四あへぐりとまげ為を。其次郎之ゑり安兵衛
もしくくくくと其首を搭高くせ外よそこ。案
そて後その首氏獄つよ魚そかり多を寡ど眼氏尼
強三よおぐく孤ざりそこ。又其次郎が自害を我場百
百四あそ何とれくおこそまぐくんるその地氏落ら氏い
俄よ俄をくくあそて小魚ふれ弗よ亜氏雇
悲歎退蔵の行方氏いてをも強外。こに小四原
久聖絶をるり和尚を脇尼活機ら和識ゆり。ふを鬱
有し悲歎成仲そこ仕者氏和尚是親事れ

あしびらくかの樹つれあるよりうつる
うつるも夢もたしぬ和歌浦より
ぼせのひさしあるものくそれ
るうに一そのろ殺を殺しあへるかの首たちより驅
寄くゝ潜うせもろ人皆わ当の変化のたゞおぐ逆しあるる
ことを感じもるさればかの天孫降臨ましたり呉國に
くハ呉の位子胥蜀の関羽この二人死後よりその怨霊
つよ勇されども相ざうとも中勢ゆうくい相るね門と山荒
次郎あるへし昔引紙一名の猛鳥ぜびしく山幸寒
をあるつるり。山葛次郎一劇滅亡して自害さい怨に
十又七月十一日なり。その怨霊あるゆゑ後

小条郡の滅亡さも七月十一日なりしこの少へよりその
代ちくも又七月十一日を聞声矢さびのを出しる
怪しき事を絶えとて

○貴狐明神

変化の初紀氏弱山後野家れ伊予国物産とて
考あり。ある河奥の君の探求にはとそしうに意あり
第花を飾ゆ形をる。河よりづくるもの狐一足さて出
るがうちに人よ紀彦氏を流ちく絶をおに。方四色と
尺く狐かしく眼前よりとある不思議をわかの
七狐少よりに来りく弱よりしゆの狐さくく来者
の意無浄さ氏初り相さてまりる居さ事ありく来

さて。そのゆえい君の一家の中ふかく狐ばかり殺に
無人あり。家一族みな絶たるよ滅されて光
狐の祟りつづきて生きてい山ずさ
人ずり。何ひとつ所芳ちり向後帰うまざるやうに教
刑ばかりつくしつ。山中調ひんよおいくらか命ぜられ
配流ありしも彼よりゆるせしくまんらく流を流
し使さる。庄田ゆのく家屋山く
ばさんうちひく来るべしと狐ちよりうべ
こんあしく失きぬそのうち庄田の取人をゆ祈さ
教刑しその跡を家が取人ら立ぬ狐ちうびきく人
ふ化くあるうと一お家業の大事紙にのをなりしに逆お

停山せしめ人こみ狐さいわぐこうとの日うちれん
君何事おくもれわるべかりぬり新しきんとい
庄田何ごとつもるべうて。たび家屋ようりぐうを金
紙ばあるこよこの形よるをなすとうて狐ずくり紙
うちく多ひあるゆうう祈ぐひり。系ちり偏尚
大羽神の役ちみしくすぐに貴狐羽神と神位と場
白りちをぐも家新のうれしさい餅よ陸くい命と失
ゆこと紙ちべ人ち高和の出ちく神位と同性ち。
名夏羽に刑害紙ちくまん。いんそ他の家紙陰ち
記人よ金紙を貪ちうや法ずくしく儀よるうち吉
事にあるべつくせの養表を祝ぐに笑祝多人ち

人毒命めぐらく神義正しき人甚稀なり。それ我
をわび矯生び威をくんじ偽をこと尤ゆり懲ましく
さうんかしく思ふ知しべ。此乃不義をびとしてと
かくして絶よ不仁の徳よりいろ。是金銀の害代為
にあるべや先代宝蓄の人を未三代孫の世にいてうてい
表働ちくこと食流浪の身とあるたぐひそのたう歴論ち。
たぐ武家永代の窮ちおね愛の所行よちくつ。此外れ
妄量なり。ちふとうしの所行捧ちんとしひく怨
ちりその妄業にうづくべ其後所四三身くこ二中五百
なん所行捧ちうち治義決
むうしげ巻之才二終